



特定非営利活動法人

アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカ共和国貧困地域への教育支援

TAAAの活動日誌 2021年

- ・ 2021-12-18 [図書委員会生徒へのITプログラム修了証書とメダル授与](#)
- ・ 2021-12-09 [生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～\(6\)](#)
- ・ 2021-11-26 [生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～\(5\)](#)
- ・ 2021-11-13 [生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～\(4\)](#)
- ・ 2021-10-29 [生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～\(3\)](#)
- ・ 2021-10-10 [生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～\(2\)](#)
- ・ 2021-09-25 [生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～](#)
- ・ 2021-08-07 [図書委員会活動としてのITプログラム](#)
- ・ 2021-06-09 [低学年生の読書習慣をはぐくむFrankland小図書室](#)
- ・ 2021-04-12 [司書教師のアンケート回答\(2\) 中高校編](#)
- ・ 2021-02-16 [司書教師のアンケート回答](#)

2021-12-18

図書委員会生徒へのITプログラム修了証書とメダル授与



Mangquzuka高校 証書授与



Dudzile中学校 委員会メンバーミーティング



Beulah小学校 優秀校表彰



Dweshula小学校 証書授与

今年も引き続きコロナ禍の影響により活動の中断や遅れが見られたが、各校の図書委員会生徒は責任を持って活動を継続してくれた。今年度の新規プログラムとして基礎的なIT技能指導も無事終了し、筆記テスト、エッセイ、履歴書作成を完了した生徒に修了証書を授与した。ITプログラムに興味を持つ生徒が多く、すでに図書委員会生徒がクラスメートに教える姿も見られた。来年度も彼らがよりITスキルを磨き、図書室内で他の生徒に指導するよう伝えた。

図書活動促進として、本来第3学期に各対象校の図書委員会生徒が集まって活動の発表や情報交換を行うイベントを行う計画をしていたが、やはりコロナ禍の影響で中止となった。今回、ITプログラム修了証書授与と同時に、図書委員会メンバーとしての努力を評してメダルの贈呈も行った。ローテーション登校等の困難な状況の中で活動を継続し、図書室が利用できるよう努力してくれたことに感謝している。来年度は彼らが中心となり、新入生を加えた新メンバーで活動を再開する。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

2021-12-09

生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～ (6)

生徒たちのエッセイ「My Self」も最終回となりました。トリは学校の 図書委員会活動だけでなく、地域のダンスグループでも活躍している高校生のマネリシさん。夢はビジネス界で活躍すること。

私自身について

私の名前はマネリシ・ンゾベ。15歳でマンガズーカ高校の8年生です。私は図書委員会メンバーで、高校に入って初めて図書活動に携わりました。私はダンスが大好きです。地域に若い男性のダンスグループがあり、メンバーとして活躍しています。ダンスはストレスを解消し、気持ちを落ち着けてくれます。



マンガズーカ高校
マネリシ・ンゾベさん

私は友人たちのことが大好きで、とても親しくしています。私はルックスがいい方だと思います。将来はビジネス界で活躍したいです。図書委員会メンバーは皆で力を合わせて活動しており、このような機会をもらえたことにとても感謝しています。

(訳：平林薫)

2021-11-25

生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～ (5)

ムガムレ高校のヨランダ・クズワヨさんのエッセイをご紹介します。エッセイにも触れられていますが、南アは全国的に十代の妊娠が問題となっており、特に新型コロナ禍によるロックダウンや学校閉鎖により深刻化しています。残念ながら対象地域も例外ではないようです。

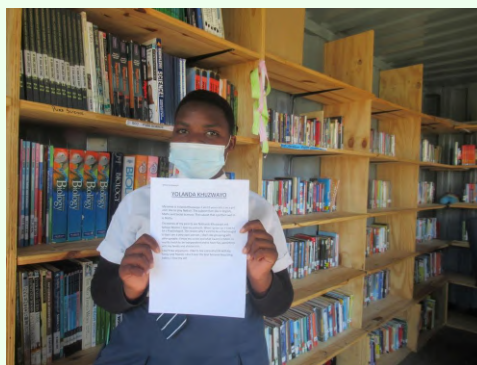
「自立した女性になりたい」というクズワヨさん。自分の名前をエッセイの題名にしました。

ヨランダ・クズワヨ

私の名前はヨランダ・クズワヨ、15歳でムガムレ高校の9年生です。私は女性で、ネットボールが好きです。好きな科目は英語と数学と社会科学で、特に数学が得意です。私の両親はノタンド・クズワヨとシピィウエ・ムソミで、両親のことをとても愛しています。

将来は心理学者になりたいです。私自身オープンな性格で、うわさ話は嫌いです。私は将来への展望をしっかりと持っています。自立した女性になって人生を楽しみ、家族との時間を大切にし、そして裕福にもなりたいです。

争いは大嫌いです。家族や友人と心安らかに暮らしたいです。はっきり言って男子は嫌い。女子を妊娠させるから。私は自分自身を愛しています。



ムガムレ高校
ヨランダ・クズワヨさん

(訳：平林薫)

Page Top ▲

2021-11-13

生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～ (4)

今回はドウドウジレ中学生スポネロ君の内面の成長にも触れたエッセイを紹介します。

「噂話や人を不愉快にすることが嫌い」からは、努力して成長してきた彼の、「他者への配慮のない行動はしたくない」という強い意思を感じます。「自分らしさ」の一つになっているのでしょう。

自分らしく

こんにちは。僕の名前はスポネロ・ンゴボです。家族とポートシェプストンのオシャベニ地区に住んでいます。15歳でドウドゥズイレ中高校の10年生です。僕は親切でフレンドリーな性格だと思います。また、物事に熱中し、一生懸命取り組みます。そしていつも好奇心旺盛です。僕は短気を起こさず、常に落ち着いているよう心がけています。



ドウドゥズイレ中学校
スポネロ・ンゴボさん

僕のこれまでの人生の中で、大きな要因となったのは小学生の時です。幼かったこともあり、様々な制限があって、友人を作ったり、学校で発表をしたりなど、十分に自分自身を表現できませんでした。当時は自尊心が低かったと思います。成長するにつれ、自分自身を向上させるよう努力しました。当時のような自分もまだ残ってはいますが、現在はとても良い友人に恵まれ、僕の力になってくれています。

僕は映画やアニメを見るのが好きで、時間があればビデオゲームや読書をしています。他人のうわさ話や人を不快にさせるようなことは嫌いです。僕の名前スポネロは英語ではExample(模範)で、母からは下のいとこたちの良い見本になりなさい、と言われていました。これは私の人生の目標に向けて努力するための大きなモチベーションとなっています。

僕は自分の周りの世界や科学に興味があり、学校では自然科学を選択しています。天文学にも興味があり、将来、天文学者か天体物理学者になりたいです。大人になったら家族を大切にし、友人と充実した時間を過ごしたいです。何事にも決意を持ち熱心に取り組むことで、素晴らしい人生を送ることができると信じています。

(訳：平林薫)

Page Top ▲

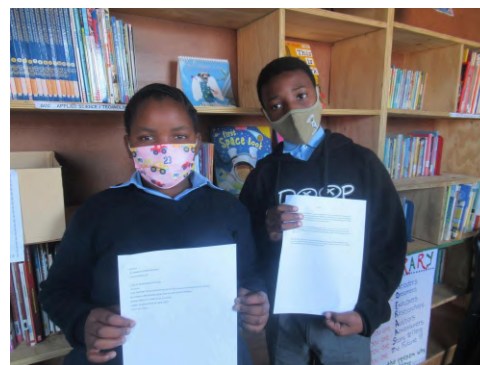
2021-10-29

生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～ (3)

今回は、フランクランド小学校の生徒2人の「My Self」をご紹介します。

フランクランド小学校は、遠隔地にあるドゥエシューラ学区のなかでも、さらに奥まった地域に位置します。周りに刺激が少ないこともあり、図書室ができるやいなや、飛びつくように本を読み始めてくれた生徒がたくさんいます。

紹介する2人は共に活発に活動する図書委員会生徒です。



フランクランド小学校
アヤンダ・グメデさん、タンド・チェレさん

私自身について

私の名前はアヤンダ・グメデです。私は10歳です。クワベ地区に住んでいます。私は女の子です。2人の姉妹と5人の叔母と祖父と2人の伯父と住んでいます。私の趣味は読書と友達と遊ぶことです。将来は弁護士になって、人々の問題を解決したいです。私は家族が大好きです。

僕について

僕の名前はタンド・チェレです。2009年2月13日にオシャベニ地区で生まれました。2012年にクワベ地区に移り、2014年にまたオシャベニへ戻り、2016年にクワベ地区に戻ってきて現在に至ります。僕の母はノンブソ・チェレ、父はボンギンコシ・ハデベです。母は2020年7月13日に亡くなり、現在僕は祖父母と暮らしています。

僕は、友達と遊んだりサッカーをしたりするのが好きです。将来は科学者になりたいです。趣味はサッカー、親友はオクシェ・タベテで、彼のニックネームはチャイナです。僕はムシヨンゴと呼ばれています。好きな科目は算数。算数は他の科目と比べてやさしいと感じています。僕の将来の夢は、気候変動から世界を守ることです。科学の映画を見て、そうしたいと強く感じました。南アフリカで一番の科学者になりたいです。僕はフランクランド小学校の7年生です。

(訳：平林薫)

2021-10-10

生徒たちのエッセイ「MY SELF」～ITプログラムの課題として～ (2)

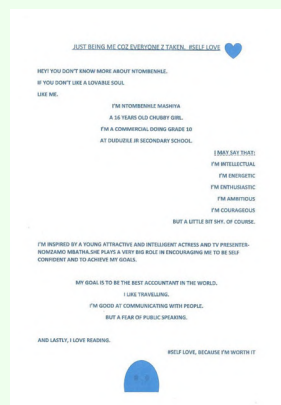
ITプログラムの実践課題として、生徒たちに自己紹介文をパソコンで作成して印刷、提出してもらいました。

今回ご紹介する「MY SELF」は、ントンベンシェ・マシヤさん。アーティスティックな図書委員会生徒です。作文もレイアウトに工夫を凝らして、デザイン風に仕上げてくださいました。オリジナルもご紹介いたします。

私らしくいること。だってみんな#SELF LOVE (自分自身への愛)を持っているでしょ。



ドウドウズイレ中高校
ントンベンシェ・マシヤさん



オリジナル

こんにちは！

もしあなたが愛すべき心の持ち主に関心がないのなら、ントンベンシェのことは分からないわよ。

私はントンベンシェ・マシヤ。16歳のぽっちゃりとした女の子。ドウドウズイレ中高校の10年生。商業選択です。

私自身については・・・知的でエネルギー、情熱的で野心を持ち、勇気があるけれどちょっと恥ずかしがり屋、かな。

私は、地元出身のとても魅力的で聡明な女優、ノンザモ・ンバタに影響を受けているの。(アメリカ映画で)大役を演じた彼女の姿に、自信を持って夢を実現させることを学んだわ。私の目標は世界一の会計士になること。旅もしたい。

人とのコミュニケーションは上手く取れる方だけど、人前で話すのはちょっと苦手。

そして最後になったけど、読書が大好き。

#SELF LOVE だって私には価値があるんだもの。

(訳：平林薫)

2021-09-25

生徒たちのエッセイ「MY SELF」 ～ITプログラムの課題として～

今年から図書活動の一環として始めたITプログラムは、順調に進んでいます。

ITプログラムといっても、生徒たちが将来パソコンを使えるようにと始めたごく基礎的な操作技術を教える活動ですが、校内にパソコンが一台もない環境なので、生徒たちはコンピューターに興味津々で意欲的に取り組んでいます。

技能の実践として、生徒たちに自分自身についてのエッセイを作成、タイプ、印刷して提出するという課題を出したところ、熱心に取り組んでくれました。

これは、パソコンを使った書類作成を練習するだけでなく、自己紹介の文章力を磨くことと、自分の将来について考えるきっかけ作りも目的としたものでした。



IT指導
Mehlomnyama小学校

提出があった小学高学年生から高校生までのエッセイはどれも味わい深く、生徒たち一人ひとり

が置かれた環境や、自分をどう思っているのか、将来の夢、家族や友達への想いが伝わってきます。

これから数回にわたって、生徒たちのエッセイを紹介させていただきます。トップバッターは、インバレンチャネ小学校のクスリレ・ルシャバさんです。

私自身について

私の名前はスクリレ・ルシャバです。6年生で12歳、オシャベニ地区に住んでいます。

私は祖母と兄と一緒に暮らしています。

母は亡くなりましたが、父は健在で、いつも学校の休暇中に会いに行きます。

私のクラス担任はマビカ先生です。好きな科目は英語とズルー語です。

何故ズルー語が好きかというと、私のルーツを教えてくれるからです。

私の学校はインバレンチャネ小学校です。

好きなサッカーチームはカイザーチーフス、好きな食べ物はサンプ（メイズの粒状のもの）です。

私はちゃらちゃらしたタイプではありません。他の子をいじめたり喧嘩したりが嫌いです。

私は自分のありのままの姿が好きです。週末は朝ジョギングをして、制服の洗濯をします。

読書が好きで、クラスではいつも10位以内の成績です。私は未っ子です。

親友は双子のスノティレとスノタンド・チェレです。私たちは一生の親友です。

学校を卒業したらソーシャルワーカーになりたいです。

(訳：平林薫)



インバレンチャネ小学校
スクリレ・ルシャバさん

(久我祐子)

Page Top ▲

2021-08-07

図書委員会活動としてのITプログラム



クズワヨ氏の熱意溢れる指導 Iimbalecena小学校



IT指導 Duduzile中学校

南アでは新型コロナ・ウィルス禍が収束しないなかで、7月には前大統領収監への抗議に端を発した暴動が南ア各地で起きるなど、落ち着かない状況が続いております。暴動は一週間続き、TAAAの対象地域も地元のスーパーや一部の個人経営店が被害に遭いました。

この間、対象校は冬期休暇に入っていたため、暴動の影響はなかったと思っていましたが、新学期になると、小学校1校と高校1校では、食料品と電気器具が盗まれていたことが分かりました。幸い、両校とも教室や図書室は荒らされず、パソコンとプリンターも休暇中は安全な場所に保管されていたので盗まれませんでした。

このように今はコロナ感染対策だけでなく治安対策にも配慮が必要になりましたが、工夫しながら学校図書支援活動を続けています。



IT指導 Umalusi小学校



自分でタイプしたネームタグをつける委員会生徒

1月からは、図書室にプリンターとパソコンを一台ずつ置き、図書活動の一環として、ITプログラムを始めました。このプログラムでは、まずは、司書教師と図書委員会生徒たちにパソコン基礎技術を教えて、図書委員会活動にパソコンを使った作業（貸し出し記録、図書推進ポスター作成など）ができるようにします。その後、技術をマスターした図書委員会生徒たちは、委員会活動の一環として、他の生徒たちにパソコンの基礎操作技術を教えていきます。

南アフリカの社会では、仕事だけでなく生活の様々な場で簡単なパソコン操作技術が必要とされています。求職や進学時にも、手書きではなくタイピングされた履歴書が求められます。対象地域のような遠隔地の若者たちは、家にも学校でもパソコンに触れる機会がないため、就職や進学において、申請時点で不利な立場に立たされます。ここをクリアして進学や就職ができた優秀な若者も、パソコン基礎技術の不足によって、職場や学校で、都心部の若者と比べて、大きな遅れをとってしまっています。

TAAAの対象校のように、学校のカリキュラムにITプログラムがなく指導者もない遠隔地域の学校では、このように図書室に1台パソコンを置いて、生徒たちの間で操作技術を教え合うピア教育は、規模は小さいですが、無理なく継続できるやり方なのではと思っています。

プログラムを軌道に乗せるには、まずは指導者となる図書委員会生徒たちがしっかりと知識と技術を習得することがとても大切なので、指導が一段落した後、確認のため、基礎知識筆記テストと技能テストの課題を課しました。筆記テストは全対象校で終了し、全体的に好成績でした。技能テストの課題は「自己紹介・将来の夢をタイプして保存した後、印刷して提出する」で、すでに数校から提出がありました。提出された自己紹介文はどれもとても興味深く、多くの生徒が「将来は医者になって、地域に貢献したい」と書いていたのが印象的で、頼もしく思いました。

全校から提出物が揃った段階で採点を行う予定です。

パソコン指導専門員のクズワヨ氏は、対象地域の出身で、ご自身もNPO活動をしている地域愛の強い若者です。先生たちとも顔なじみでやりやすく、熱意を持って指導にあたっており、生徒たちのロールモデルになってくれています。

どの地域でもいえることですが、特に対象地域のような厳しい環境では、子供たちが地元で活躍する若いロールモデルとの出会いは、健全に希望を持って生きていく上で貴重です。TAAAも活動

を通して、将来ロールモデルになる若者リーダー作りに少しでも貢献できれば嬉しいです。

(久我祐子)

2021-06-09

低学年生の読書習慣をはぐくむFrankland小図書室



Frankland小コンテナ図書室



Frankland小図書委員会生徒への研修

今学期より正式にFrankland小学校がN連事業（日本NGO連携無償資金協力事業）対象校となり、IT指導が開始された。昨年度からの対象校であったCophela小は“TAAA支援校”として、継続して図書活動へのサポート行うこととなった。 Frankland小は対象校であるNani高校の近くにあるが、初年度のN連事業対象校選考の際に12校枠から外れてしまった。Nani高を訪問するたびに同校の前を通り、何となく申し訳ない気持ちになっていたのが、同校の図書支援の必要性を探るため訪問してみると、やはり“何故うちの学校は含まれなかったのか”と感じていたという。教師たちはNani高に設置された図書室を見学に行き、羨ましがっていたとのこと。それほど図書室設立を望んでいたのだった。

昨年度、校内に空きスペースのない同校への支援を探っていたところ、ひろしま・祈りの石国際教育交流財団から助成をいただき、コンテナ図書室を寄贈することになった。

コロナ禍のため、多少の遅れが出たが、昨年末までにコンテナ配備、本棚の設置が完了し、少しずつ蔵書を揃えて行った。新学年が始まり、すぐに図書委員会メンバーが選出され、研修を行った。学校全体で生徒の本への興味が大きく、早速活発に図書室利用が始まった。同校は未舗装道路の遠隔地域にあるため、周りに刺激となるものが少ないことが本好きになる一つの要因かもしれない。同じ学区内でも前述のCophela小はタウンシップのような環境にあるので、テレビやゲームの方が楽しいという生徒もいるのだろう。



Frankland小本の寄贈



熱心にIT指導を受ける図書委員会生徒たち

Frankland小は校長の活動への理解とサポートが大きく、司書教師とも常に話し合いを持ち、活動を向上させる努力をしている。今学期からは低学年の生徒を週2回授業時間内に図書室を訪問さ

せ、本に親しませている。先日は2年生の感想文を受取った。正直なところ、何を書いているか十分に理解ができなかったが、生徒たちの感動が伝わってきた。他校でも中高学年がクラス単位で図書室を利用する姿が見られるが、今後、低学年の図書室訪問を推進・強化しようと考えている。

図書活動をしていて日々感じるのは、読書はやはり小さい頃からの習慣なのだということ。5-6年生になると“読む・読める”生徒と“読まない・読めない”生徒がはっきりとしてくる。様々なことに興味・好奇心を持つ低学年のうちに“本が好き”になることが何よりも大切なのだ。一方で、“読まない・読めない”生徒を置いてきぼりにはできないので、対応策として、マンガ本やパズルの導入などを進め、だれもが訪問したくなる“楽しい図書室”作りを目指している。

(TAAA南ア事務所 平林薫)

Page Top ▲

2021-04-12

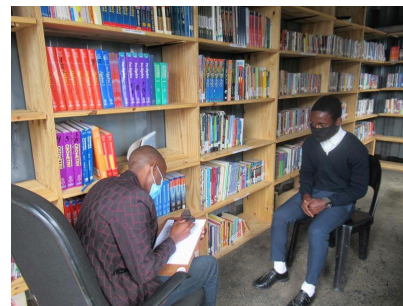
司書教師のアンケート回答(2) 中高校編



Dudzile中 朝会で図書室利用を呼びかける図書委員会生徒たち



Mangquzuka高 コンテナ図書室



Mgamule高 図書委員会生徒の実践テスト

2月16日に小学校の司書教師アンケート回答をご紹介します、「次回は中学、高校の回答をご紹介します」とお伝えしてから、だいぶ間があいてしまいました。すみません。

今回は、中学校1校、高校4校の計5校からの司書教師アンケート回答をご紹介します。

質問： 生徒たちに図書室利用や読書を促すために、図書委員会生徒たちとどのような活動をしてきましたか。

回答： 朝会で朗読、朝会で本の紹介、ブックレビュー、スプリング・朗読・スピーチコンテスト、ブックレビューコンテスト、各教室内で図書室利用の呼びかけ、ストーリーテリング、パレインタインデーなど特別な日に図書室でイベントを行う

質問： 学校に図書室ができて図書活動をしてきたことで、生徒たちにどのような変化がありましたか。また第2年次に向けてTAAAへのリクエストはありますか。

回答：

- 生徒の読書への興味が深まってきた。
- 図書委員会生徒たちは、自分たちの力でブックレビューコンテストを推し進めた。
- 生徒たちの読解力が向上した。
- 図書委員会生徒は自主的に活動を進められるようになった。
- 図書委員会生徒が中心となって行う図書活動を行ったため、校内で多くの生徒が参加するようになった。
- プロジェクトが始まってから図書室を訪問する生徒の数が増加した。
- 特に言語の授業で成績が上がってきている。

- プロジェクトで購入した学習参考書が大変役に立ち、生徒の図書室利用につながった。第2年次も参考書の追加配備をして欲しい。
- 生徒たちが図書室を利用して、リサーチができるようになった。
- 生徒たちは英語スピーチやストーリーテリングの準備に図書室の本を利用することで、語彙力を身につけた。
- 歴史選択の生徒が図書室にある歴史の本をととても良く利用している。
- 第2年次はズールー語の小説を揃えて欲しい。

アンケート結果から、コロナ禍で活動が大幅に制限されているなかで、図書委員会生徒たちが、主体的に活動に取り組んできた姿がうかがえます。また彼らをそのように指導してきた司書教師たちの力量も素晴らしいと思いました。

中学校、高校では、図書委員会生徒たちが図書室をしっかり管理運営していくスキルを身に付けているかが、TAAAの支援が終わったあとの活動継続と発展につながっていきます。

そこでN連1年次事業が終了時に、図書委員会生徒たちに図書管理運営の実践テストを行いました。その結果、テストに参加できた生徒（コロナ禍の影響で参加できない生徒もいました）は全員合格となりました。

コロナ禍のなか比較的スムーズに第2年次事業に進むことができましたが、それは彼らの頑張りによるものが大きいのだと思います。

(久我祐子)

2021-02-16

司書教師のアンケート回答



ELTS担当員とTAAAプロジェクトマネージャーに図書活動状況を伝える
Umalusi小の司書教師



コロナ対策として訪問時に
質問票に記帳させる司書教師



9月の研修会でグループワークをする
司書教師

昨年9月に、新しく支援するようになったトゥートン学区で12校を対象に学校図書支援活動を開始しました。地域には、本屋さんや図書室がなく、生徒たちの家にも本はありません。TAAAの活動を通して、生まれて初めて読書のために本を手にとった生徒が多くいました。

学校に図書室が設置された後は、コロナ禍の影響で活動は難航した部分もありましたが、「この時期こそ本を読んでもらいたい」との願いでなんとか図書支援を継続することができました。読書に馴染みのない地域で、しかもコロナ禍のなかで、生徒たちが図書室を利用して読書習慣を育めた背景には、TAAAの図書活動に賛同して司書教師になってくれた先生たちの頑張りや熱意がありました。

10月末に対象校全12校の司書教師にアンケートを実施し、全校から回答をもらいました。
今回、うち小学校7校のアンケート回答を一部ご紹介いたします。

質問： 生徒たちに図書室利用や読書を促すために、図書委員会生徒たちとどのような活動をしていましたか。

回答： ブックレビュー、スペリングコンテスト、ストーリーテリング、図書室を楽しく装飾する、生徒たちによる図書推進ポスターの作成、各教室内で図書室利用を呼び掛ける、図書委員会生徒が朝会や集会で図書室利用を呼び掛ける、クラスごとに図書室を訪問させる

質問： 学校に図書室ができて図書活動をしてきたことで、生徒たちにどのような変化がありましたか。また第2年次に向けてTAAAへのリクエストはありますか。

回答：

- 生徒が本を借りて読後にブックレビューを書けるようになり、ストーリーテリングもできるようになった。
- 少しずつ生徒の読解力がついてきた。
- 第2年次は蔵書を追加してほしい。
- 生徒たちは図書室に興味津々で、率先して訪問するようになった。
- 生徒が読書習慣をつけ、授業にも好影響が出ている。
- 生徒の読書への興味が深まった。今年はコロナ禍により活動が滞ってしまったが、来年はより活発に行きたい。
- 頻繁に図書室を訪問して本を借りる生徒が出てきて、読書を楽しむ姿が見られるようになった。第2年次は蔵書の追加配備をして欲しい。
- 生徒が本への興味を示し、自主的に図書室を訪問して本を借りるようになった。
- 生徒が率先して図書室を訪問し、本を借りるようになった。
- 生徒の語彙力が高まった。
- ロックダウン中も本を借りて読んだ生徒が、教師にストーリーを伝える姿が見られた。

(久我祐子)